

◆ 活動成果：人材育成

2013年



2015年



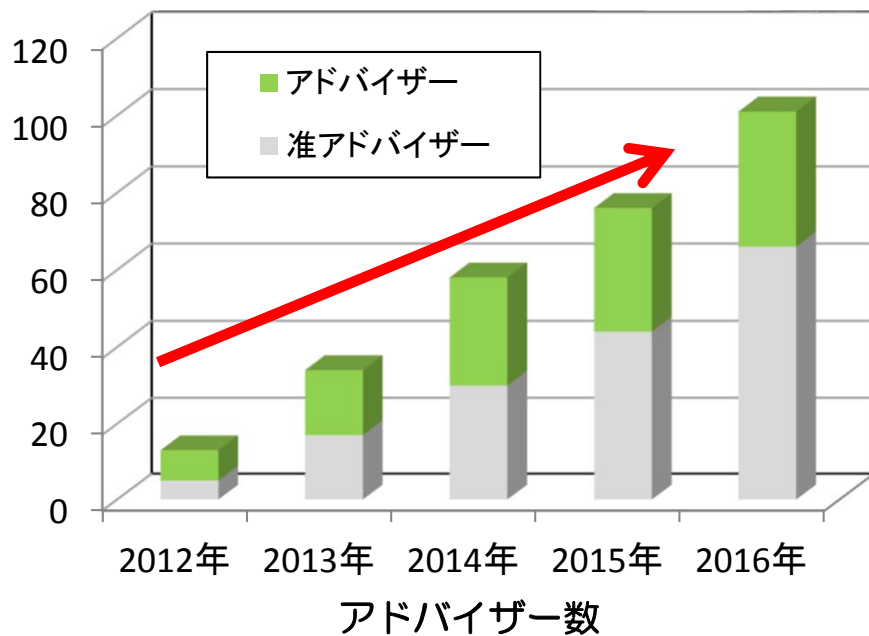
2017年



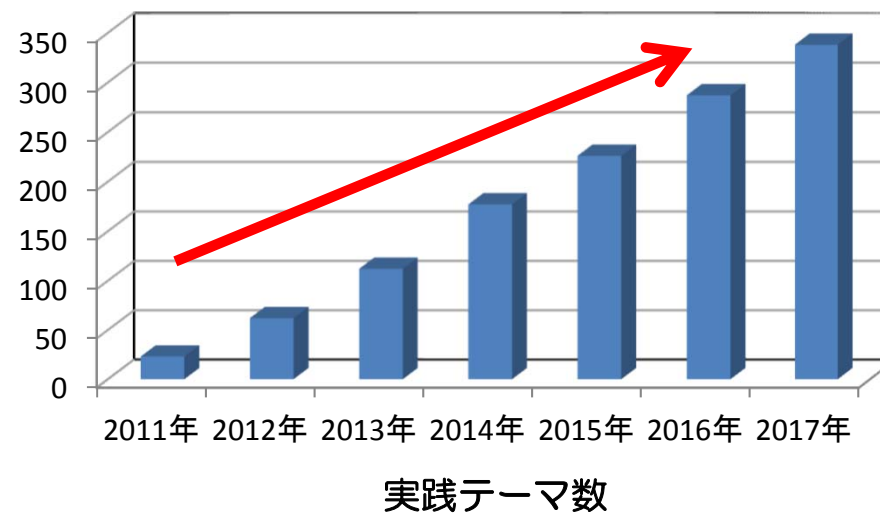
2014年



2016年



アドバイザー数、実践テーマ数ともに
継続的に毎年増加



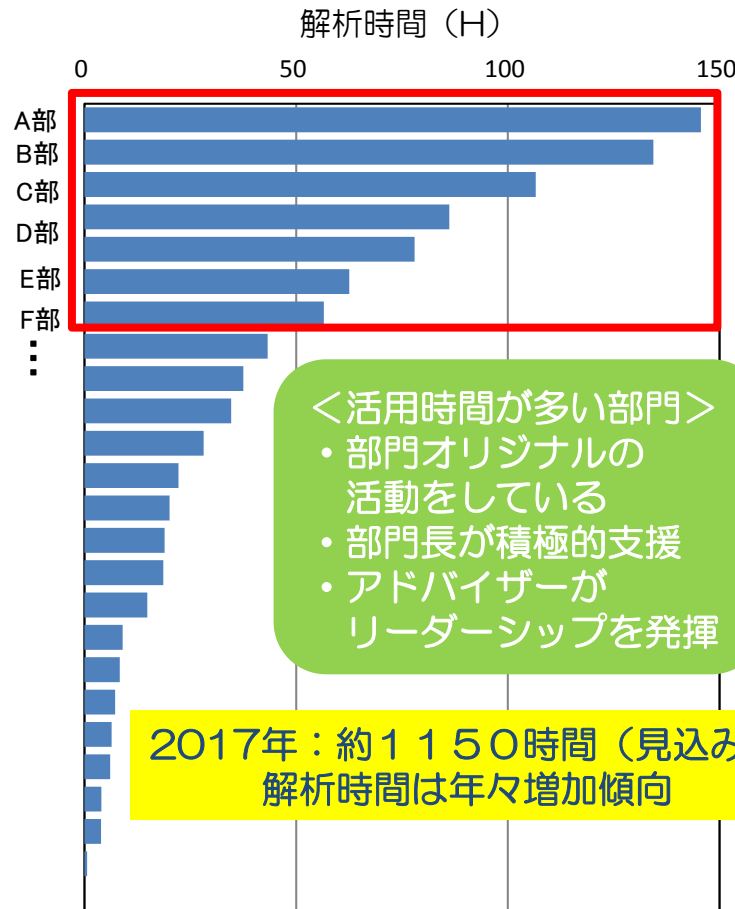
18年度以降は実務成果をKPIにした活動にシフト

◆ 活動成果：社内事例 ①と②（掲載不可）

最後に： JUSE-StatWorks/V5 の活用貢献度（ネットワーク版）

- ログデータを集計し、利用状況を調査（2017年1月～10月分集計）

①解析時間

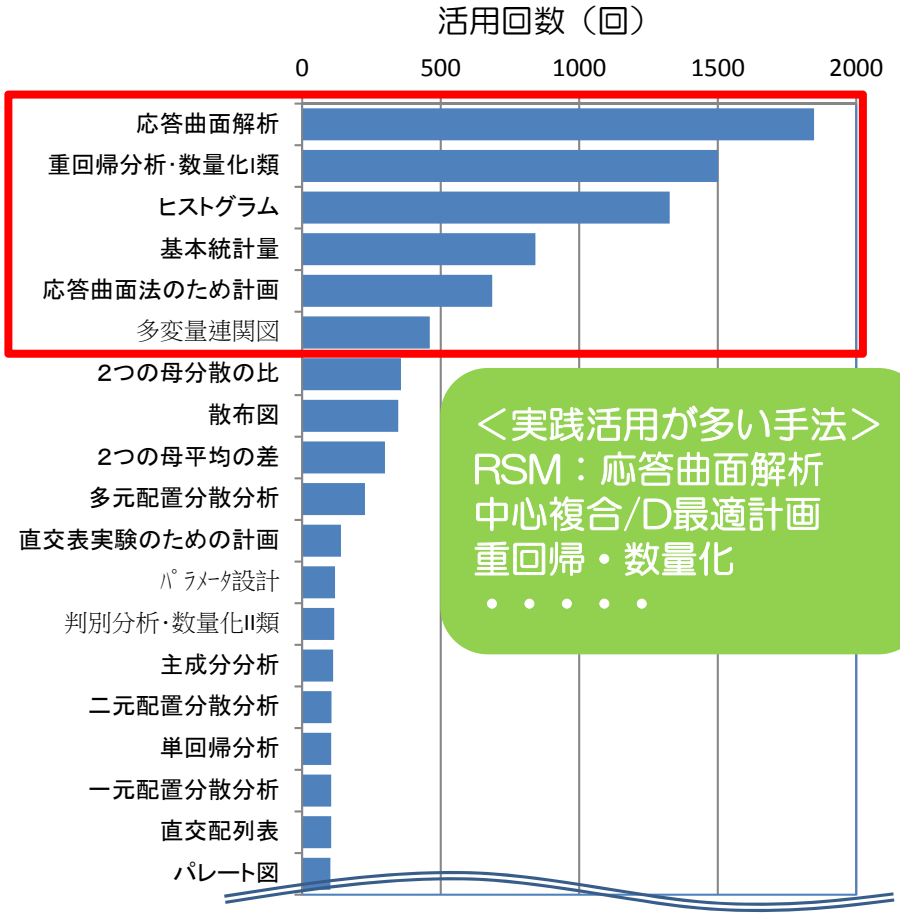


＜活用時間が多い部門＞

- ・部門オリジナルの活動をしている
- ・部門長が積極的支援
- ・アドバイザーがリーダーシップを発揮

2017年：約1150時間（見込み）
解析時間は年々増加傾向

②手法別活用回数



＜実践活用が多い手法＞

RSM：応答曲面解析
中心複合/D最適計画
重回帰・数量化
.....

「JUSE-StatWorksは、SQC/QEの実務活用には必要不可欠のツール」

アドバイザー数や実践テーマが年々増加していくため、実務貢献への寄与が今後一段と高くなることは必至であり、ライセンス数等の増強が必要

トヨタグループSQC研究会 50年の歴史 (1967～)

2010年代 2010(平成22年) 2020年代 2020



●トヨタグループSQC研究会 50周年

●トヨタ自動車九州が参加(全13社)

【組織】2010年
・開発設計G
・生準・生産G
・商品企画G
・事務管理G

【組織】2015年
・開発設計G
・生準生産G
・商品企画・事務管理
セミナー
・ビッグデータ研究会

【組織再編】2017年
・新グループ研究会発足
(詳細別紙)
・ビッグデータWG活動

主査2011



活動風景(2010年度)



目的別研究会
年度別活動報告を実施
商品企画G、事務管理G



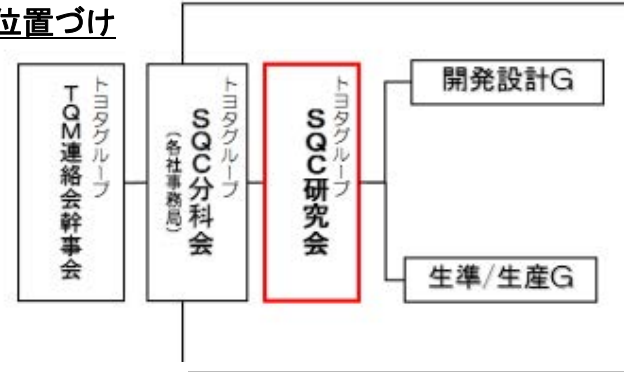
ビッグデータ研究会(2015～)
年度別活動報告を実施

●第50回記念(2015年) オールトヨタTQM大会

2010(平成22年)

2020

SQC研究会の位置づけ



トヨタグループSQC研究会

年月	2010	4	8	12	2011	4	8	12	2012	4	8	12	2013	4	8	12	2014	4	8	12	2015	4	8	12	
研究会発足																									
研究会再編																									
研究会再編																									

SQC研究会の活動

期間：2年間
頻度：1回/月
会場：トヨタグループ
持ち回り

成果物

①報文集



②実践テキスト



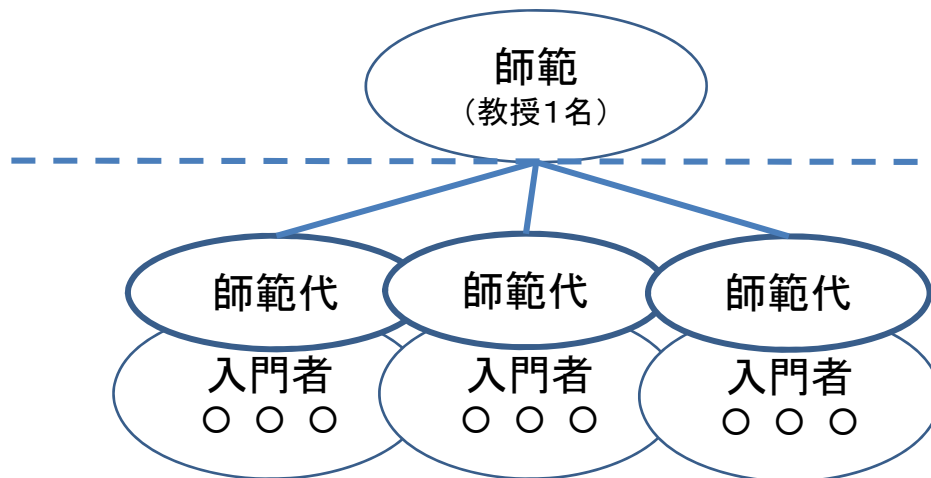
◆トヨタグループSQC研究会 「実践テキスト」
発刊4冊（掲載不可）

トピックス：IoT/ビッグデータ関連

- ・各社において、IoT/ビッグデータに対応できるデータサイエンティストが大幅不足
- ・トヨタグループ一丸となって効率的に競争力を高めるため
一人ひとりがデータを活用し仕事の質を向上させることが必要である
- ・そのため、各職場でデータ活用を推進できる中核人材を配置すべく
ビッグデータ分析の研修プログラム「機械学習実践道場」を創設する

<機械学習実践道場>

【指導体制】



師範	滋賀大学の教授、准教、助教
師範代	トヨタグループビッグデータWGメンバー
入門者	各社選抜された技術者
会場	豊田中央研究所
頻度	1回/月(5月～3月)

本著作物は原著作者の許可を得て、株式会社日本科学技術研修所（以下弊社）が掲載しています。本著作物の著作権については、制作した原著作者に帰属します。

原著作者および弊社の許可なく営利・非営利・イントラネットを問わず、本著作物の複製・転用・販売等を禁止します。

所属および役職等は、公開当時のものです。

■公開資料ページ

弊社ウェブページで各種資料をご覧ください <http://www.i-juse.co.jp/statistics/jirei/>

■お問い合わせ先

(株)日科技研 数理事業部 パッケージサポート係 <http://www.i-juse.co.jp/statistics/support/contact.html>